

青空

2024. 10. 4

一昨日の朝は、見事な快晴だった。風が全くない。過ごしやすい朝だった。金木犀の香りがしてくる。秋を思わずにはいられない。とはいえ、10月だというのに、まだまだ半袖でいける。やはり、暑い期間が長くなっているのだろう。これでは、衣替えもむずかしくなる。10月1日から一斉にというわけにはいかない。移行期間を設けるようになる。

福島の青空を眺めながら、ふとローマの青空が蘇ってきた。ローマには、青空が似合っていた。いつも青空だったイメージがある。逆に、曇りの日が珍しかったように思う。雨は降るには降る。なぜだかはわからないが、夜のうちに降って、朝方にはやんでいる。傘を使った記憶がない。これが、地中海性気候なのだろうか。

地中海性気候でも、一応、四季はあった。夏は暑いし、冬には気温が下がる。だが、福島のような蒸し暑さはない。カラッとしている。冬も雪が降らない。3年間で、一度だけ、うっすらと雪が積もったことがあった。日本人学校の子どもたちは、校庭に出て、大はしゃぎだった。この雪も、昼頃になると消えていた。

福島の青空もきれいなのだが、ローマの青空は、空の青さが違っていたように思う。青が少し濃いように感じた。たまたま、そう見えたのかもしれない。気分的なものもあるだろう。ローマにいるときに、青空を見ながら福島の空を思ったことはなかった。きっと、福島には、青空のイメージがなかったのだろう。

だからこそ、一昨日のような快晴、無風の朝、雲一つない青空が心に残る。何か特別なもののように思えてくる。自分の中で、青空のイメージがあるのは、5月と10月である。特に、10月の青空はきれいである。木々も徐々に色を変えていく。青と紅のコントラストがよい。吾妻山が紅く色づき、空が快晴の青空となる朝は、福島の秋がつくり出す最高傑作である。錦秋の青空である。

一昨日、いつものコンビニに寄った。久しぶりに、二人組のおばあちゃんにお会いした。アイスコーヒーのお二人である。ちょうど、コーヒーコーナーに二人仲良く並んで、コーヒーが出来上がるのを待っているところだった。手に持っているカップが目にとまった。アイスコーヒーではない。ホットコーヒーにかわっていた。まだまだ日中は暑いとはいえ、季節は秋になってきている。ホットコーヒーを手に持ったお二人は、いつものように南へと歩いていった。清々しい青空に、お二人の後ろ姿が似合っていた。